

平成29年度 第3回 平塚市図書館協議会 会議記録（要旨）【公開用】

開催日時	平成30年2月15日（木）14時15分～16時05分
開催場所	平塚市中央図書館3階会議室
出席者	委員 竹之内 禎 会長 小林 利幸 副会長 湊 敬実 委員 中野 友香 委員 跡部 左恵 委員 河野 亜希 委員 事務局 高橋 社会教育部長 宮川 中央図書館長 丸島 北図書館長 宮脇 西図書館長 佐伯 南図書館長 菊坂 奉仕担当長 高橋 管理担当長 杉山 管理担当主査 平原奉仕担当主査
欠席者	なし
傍聴人	3名

議 事

（1）今期テーマの検討

・貸出点数制限の緩和及び利用制限等について

事務局から資料の説明を行った。

前回図書館協議会での意見を元に、新図書館システム導入のタイミングにあわせ、貸出点数及び延滞者への利用制限について変更を検討している。貸出点数については、前期図書館協議会からの要望もあり現行各館7点から全館で15点へ緩和する方向である。延滞者への利用制限については、前回会議で提示した変更案への委員からの意見を踏まえ、次の点を変更した。延滞資料がある場合、返却期限の翌日から30日後に新規の貸出を停止すること及び予約の受付は即停止することとする。（確保資料はそのままとし、延滞資料の返却後は、すみやかに停止を解除する。）また、図書館資料の貸出のルール順守の同意については、新規登録の方にはカード作成時に同意いただき、登録済みの人は掲示等でPRし、同意書などは不要としたい。その他、調べ物活動支援用、読み語り活動支援用、おはなしボランティア用の貸出点数については、資料では「平成31年度を目途に」となっているが、現在、更新のための作業を行っており、この時期についても検討している。（実際には早まる見込み）

あわせて、12月に開催された平塚市図書館システムの更新に係るプロポーザルの結果を報告した。3月議会での来年度予算承認後の決定となるが、今後の予定について報告した。

【会 長】 前回会議からの意見を踏まえ変更したとのことだが、意見等はあるか。

【委員一同】 特になし。

・図書館の運営体制の検討

前回会議では、前期図書館協議会からの引継ぎとして、平塚市図書館の現状や課題など運営面から説明させていただいた。前期図書館協議会でも何度か協議してきたが、市側がどういうビジョンを持って図書館行政を行っていくのかをまず、検討してほしい旨要望があった。また、前回会議でも「平塚市図書館がどのように運営し、どのよ

	うなサービスを利用者に提供していくか検討し、それに適している運営形態を選んでいただければと思う。」とご意見をいただいた。
	それを受け、平塚市図書館として何を目指し、どのようなサービスを提供していくのかを示した「これからの平塚市図書館サービス方針」を資料に基づき事務局から説明した。図書館をめぐる様々な課題をみても、サービス方針・施設計画等の検討が早急に必要である。「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」、「奏プラン」、「平塚市シティプロモーション指針」を元に、「誰もがいきいきと学べ、自慢できる『お役立ち図書館』」を目指すことを柱とし、7項目を目標として設定した方針案を提案した。
【 委 員 】	平塚市図書館サービス方針（案）として7項目あるが、例えば一つの「子どもから大人まで、読書に親しむ環境をつくります」を例にとると、そのためにどうするのかということまで示さないのか。どのようにしてその方針を実現させるのかということを知りたいと思う。
【 事 務 局 】	今回は根幹の方針を示させていただいている。どういった方策によってその方針を実現するかということは今後検討させていただき、ご意見をいただきたい。
【 副 会 長 】	5ページ「2 財政的効果を狙った経営形態の検討」として指定管理者制度を導入する場合を例にとり挙げられているが、指定管理者制度以外に部分的な業務委託の導入などは検討しているか。
【 事 務 局 】	近隣市町を例にとっても、指定管理者制度または業務委託が導入されている図書館が多くある。また、全庁的な動きとして「民間活力活用方針」が今年度中に取りまとめられ、図書館もその中で業務委託又は指定管理者制度の導入の検討がされ方向性が示される予定なので、今後はその方針もあわせ、随時ご意見を頂戴できればと思う。
【 副 会 長 】	同じく5ページ「3 施設老朽化、公共施設再編に伴う新しい中央図書館の検討」とあるが、平塚市は社会教育施設のみならず多くの施設があると思うが、全市的な施設の老朽化対策のビジョンや方針などはあるか。
【 事 務 局 】	全市的なものとして「平塚市公共施設等総合管理計画」を策定し、長期的視点に立った老朽化対策などを定めている。今後、個別施設毎の長寿命化計画を策定する必要がある。
【 副 会 長 】	6ページ「5 将来、専門的技能・知識を有する職員が不足」の中で、近年司書職採用は行っていないとあるが実際どのくらいの期間実施していないのか。
【 事 務 局 】	司書職採用として募集があったのは、地区図書館が増えていた平成5年までである。
【 副 会 長 】	今後司書職採用を再開する予定はないか。
【 事 務 局 】	採用側に要望はしているが、市全体としての採用の方針があるので、中々実現は難しい。
【 事 務 局 】	現在司書職として在籍しているのは4名である。
【 会 長 】	限られた分野ではあるが、司書職として専門採用している図書館は少ない状況もあり、採用を再開すると話題にもなると思うので、継続

	要望していただきたい。
【事務局】	この場でご了解いただければ、図書を専門に勉強する東海大学の学生さんの意見もいただきながら方針を作成していきたいと思うのがか。
【会長】	東海大学には司書課程を学ぶ学生がいるので、そういった学生の意見を取り込みながら「これからの平塚市図書館サービス方針」を策定していきたいとの提案であったが、その方向で進めさせていただいてよろしいでしょうか。
【委員一同】	(異議なし)
【委員】	専門的な司書業務の一部について、ICTを活用し司書業務をサポートするようなシステムの導入は、財政効果の面もあわせて検討しているのか。
【事務局】	現在、コンピュータ技術は検索機能等で多く活用されている。また、資料をデジタル化して提供できるようになり、利用者が図書館に直接足を運ぶことなく、インターネット上で調べたいことを閲覧することも可能である。さらに、調べたいテーマを選択すると、関連図書がどんどん広がっていくというサービスを既に提供している図書館もあるが、費用がかかるので難しい。司書の業務をサポートするものとして、データにつなげるための道具は様々あるが、利用者がどのようなことを調べたいのか掘り下げていくというレファレンスを引き出す作業は司書の役割であると考えます。
【事務局】	これからの図書館にはこういった技術の導入が必要であるなどの提案があれば方針の中に入れて検討していきたい。
【事務局】	先ほどの補足として、利用者からよくいただく質問のQ&Aをホームページ等で発信していくと、利用者が自身でいろいろと調べることができるきっかけになるようだ。図書館から積極的に情報を提供していくサービスにも今後さらに力をいれていきたい。
【委員】	12ページの7項目に入っていないが、専門的スキル・知識を有する職員が不足している課題に関して何か方針へ反映させないのか。
【事務局】	今回はあくまでもたたき台として示させていただいたので、今後検討させていただきたい。
【委員】	「誰もがいきいきと学べ、自慢できる『お役立ち図書館』というキャッチフレーズはとても良いと思った。今後、図書館を利用している方の声を聴いた上でサービス方針を固めていくと良いと思う。
【会長】	図書館のホームページからも検索できるが、平塚市図書館開館60周年の際に利用者アンケートを実施しているようなので、来年度70周年の際に同じように利用者アンケートを実施しても良い。
【事務局】	図書館を利用されている方のご意見やご要望については今後どういったかたちになるか未定だが盛り込んで方針を固めたい。
【委員】	妊娠期から出産・育児期間は親の関心が高まる時期なので、そういった層をターゲットとし、将来子どもにどんな本を読んでほしいか等

	本への関心を高めてもらえるようなアンケートを実施したり、広報を行うのはどうか。また、その後の小学校入学時や10歳で迎える2分の1成人式等の節目で、図書館へリクエストした本を蔵書として追加できるサービスを提供する等図書館の利用を近づける仕掛けをしていくのは有効ではないか。
【委員】	方針を策定する際は、どういった方々で話し合うのか。
【事務局】	まず図書館の方で方針のたたき台を作成し、そこに先ほどご意見があったように、様々な年齢層の方々のご意見を反映させていただければと思う。
【会長】	図書館協議会は学校関係者から市民公募の方までいるので、まずこの場で原案を話し合っていく、足りない部分はアンケートをとったり、大学生へ意見を聞いたり、場合によってはパブリックコメントを実施したりしていくという方向で進めていければと思う。
【委員】	方針を検討するにあたって、あまりにも幅広い年齢層を対象とすると難しいかもしれないので、特に力をいれるターゲット層を決めていった方が良いのかもしれない。
【会長】	4館全体の方針として検討するのか。
【事務局】	館によって特徴はあるが、4館全体の方針ということで検討させていただきたい。

(2) 平塚市図書館設置70周年記念事業

事務局から資料の説明を行った。事前に図書館職員からアイデアを募集し予算をかけず実施したい。図書館システムの更新も予定されていることから、新たに追加される機能を活用した企画も実施する予定である。ご意見があればいただきたい。

また、前回図書館協議会の際、会長から「図書館のイメージキャラクターを作成してはいかがか」というご提案をいただいた。それを受け、北図書館長発案のふくろうをイメージしたキャラクターを紹介させていただきたい。

【事務局】	図書館にはすでに白鷺をイメージした「ぶっくん」というキャラクターがあるが、動きを付けられない制約がある。図書館の使い方など子どもたちに紹介する際、親しみのあるキャラクターが様々なポーズをして案内できればよりわかりやすいのではないかと思い、ふくろうのキャラクターを作成した。
【事務局】	ネーミングは、「ぶくまるくん」や「ぶっくまるくん」等どうかと検討している。ネーミングを公募する方法もあるが、職員提案のキャラクターなので、ネーミングを含め図書館の方で決めて、まずは70周年限定キャラクターとして使用させていただき、その反響をみて今後展開していければと思う。
【会長】	このキャラクターは、北図書館では既に使用しているのか。
【事務局】	子どもたちに向けた図書館利用案内のキャラクターとして、今年になってから一部使用を始めている。インターネットで検索したところ、似たデザインはないので大丈夫だと思うが、ネーミングについては他にはないか確認して決めたい。

【 会 長 】	本屋のサービスで「ぶくまる」という名前はあるようだが、物が違えば使用しても良いようなので、北図書館長にちなみ名前に「まる」を付けるのは良いと思う。
【 委 員 】	「各館にニックネームをつける」という提案があったが、それは地区ごとに公募した方が良いかと思う。また、予算にもよるが4枚くらいの紙を使用して絵本を作成しコンテストを実施しても面白いと思った。
【 事 務 局 】	70周年記念事業の予算自体はないが、やり方を工夫すればできると思うので検討させていただく。新図書館システムの導入もあるので、そのサービスと合わせ企画は検討していきたい。
【 委 員 】	各館のニックネームについては、どういったところで使用するつもりか。
【 事 務 局 】	職員から出されたアイデアとして提示したもので、この中からどれを実現するかしないかまではまだ詰めていない。ご意見があればいただければありがたい。
【 委 員 】	先ほどのキャラクターの資料に戻るが、子ども向けの図書館の利用案内であると、資料に使用している言葉遣いと少し難しい気がする。ある小学校の図書室では、「あしたも」(あいさつ・静かに・大切に・戻す)という標語を決めていたりするようなのでそのような標語があれば、小学校低学年にもわかりやすいのではないかと思う。また、先ほどの資料で「ブックカバーを作成する」提案があったが、本のしおりを作成したりすることも子どもたちに喜ばれるのではないかと思う。

(3)「平塚市子ども読書活動推進計画（第三次）」の中間評価実施報告書

前回報告書案から重点取組「地域」における中間評価部会からの提案事項を9・10ページに、重点取組「図書館」における中間評価部会及び図書館協議会からの提案事項を21・22ページに追加した。前回図書館協議会及び中間評価部会から、図書館で行っているおはなし会について、21・22ページ「小学校中高学年は、本を読んでもらうためだけにおはなし会に参加しようとは思わないのではないか」、「小中学生に図書館にきてもらえるように、おはなし会のようにただ本を読んでもらうだけでなく、参加者にアクションを起こしてもらうような事業を実施してはどうか」とのご意見をいただいたので、来年度に向け、小学生を対象としたワークショップ、参加型のイベントを何らかの形で実施できればと考えている。

今後は、2月下旬に教育委員へ中間評価の結果を報告し、その後順次、市のホームページ等で報告書を公開していく予定である。この報告書をとおり、現場で活躍されている方々の生の声を残し、事業改善へ向けて働きかけていきたい。

(4) その他

竹之内会長から、本と図書館の世界に親しみをもってもらうための参考資料として、ヨシタケシンスケ『あるかしら書店』（ポプラ社 2017 年）、「トキャラ図鑑」、「ブックパンケーキ、分類ポスター」、日本十進分類法擬人化普及委員会「日本十進分類法擬人化しました」（はつかいち市民図書館に寄贈、他図書館施設でも利用可能）の紹介があった。

【 会 長 】	さきほど提案があったキャラクターだが、ぜひラインのスタンプとしていただければ普及していくと思うので検討いただきたい。その他、委員から何かあればお願いしたい。
【 委 員 】	このキャラクターは、著作権を申請したりするのか、それとも自由に使用できるようにするのか。
【 事 務 局 】	まだそこまで検討していない。
【 委 員 】	春休みに子ども向けのイベントは企画しているのか。
【 事 務 局 】	中央図書館ではおはなし会の拡大版のようなイベントを予定している。詳細が決定したらホームページ等で周知する予定である。
【 委 員 】	東海大学で夏休み等に子ども向け、親子向けのイベントを実施していると思うが、図書館でも大学の先生を招いて何かイベントを行ったりすると良いと思う。
【 会 長 】	単発のイベントと何日かシリーズ化したイベントとどちらが参加しやすいと思うか。
【 委 員 】	習い事をしているお子さんも多いのでそういった方には単発型の方が良いかもしれないが、人によると思う。大学の先生が参加型でイベントを行ってくれると良い。
【 事 務 局 】	東海大学で学ぶ学生さん主体のイベント等もあわせて今後展開していければ良いと考える。
【 委 員 】	博物館等では講師を呼んでプラネタリウムの上映をしたりしていると思うが、図書館では講師を招いた講座は実施されていないように思う。
【 副 会 長 】	県立図書館では大学の先生を招いた講座は常に開設している。大学の先生は、図書館の報償規定内でスケジュールが合えば協力いただけることが多い。公立図書館は無料の原則があるので、無料で実施する講座は非常に人気である。先ほどのサービス方針の案に、サービスの対象をある程度絞った方が良いとの意見があったが、県立図書館では、「人生100歳時代」として学びなおしを推進しているので、比較的年齢が高いターゲット層を対象として講座を実施している。
【 委 員 】	県立図書館と市の図書館の大きな違いは何か。
【 副 会 長 】	神奈川県内2つの県立図書館があるが、市の図書館に比べ身近にある訳ではない。県立図書館としては、電車に乗ってでもお越しいただけるよう魅力的な講座を開く必要もあると感じている。
【 事 務 局 】	市立図書館では中々購入できないような高価で専門的な資料を県立図書館に購入していただいたりもしている。県立図書館には市立図書館のバックアップをする大きな役割もある。
【 委 員 】	そういった資料は県立図書館まで足を運ばないと借りることはできないのか。
【 副 会 長 】	県立図書館と平塚市図書館では週に1便やり取りをしているので、県立図書館の蔵書は、直接県立図書館にお越しただかなくても平塚市の図書館の窓口でお申し出いただければ、平塚市の図書館の窓口で

	貸出・返却が可能である。
【委員】	初めてそういった仕組みがあることを知ったが、そういった仕組みは図書館の利用者は知っている方が多いのか。
【副会長】	県立図書館ではホームページ等で案内している。各市立図書館でも同じように案内していると思う。平塚市の図書館が所蔵しない本でも、県立図書館や、他の市町村立図書館から取り寄せて利用することができる。
【会長】	知らないはずと使用しないサービスかもしれない。県内の各図書館を繋いで図書館間のやり取りすることも県立図書館の大きな役割であると考える。
【委員】	最近、市内小学校の図書に関する情報交換の場で、家で読書をしない子が多く、どのような対策すれば良いか話題にでる。普段図書館に足を運ばない方も、親子で図書館へ行ってみようと思えるような催し物があれば家庭での親子読書の機会に繋がるのではないかと感じた。
【事務局】	予算が限られており、図書館として講師を招いた講演の実施が中々難しい状況ではあるが、公民館の家庭教育学級という講座の中で、読書に親しむ講座を開いたりしている。また各中学校区子ども読書活動推進協議会の中では、独自に講師を招いて親子読書に関する講演を実施している地域もある。図書館以外で取り組まれている様々な読書に関するイベントや情報について、図書館を通じて情報発信できるように連携していく必要がある。
【事務局】	図書館に足を運んでいただけるよう、図書館の施設を利用して様々なイベントを実施したいと考えている。
【委員】	例えば理科実験、ロボットづくり、ぷちなでしこ（職業体験）、工作体験等参加型の講座は、また行ってみたい、やってみたいと子どもが思い、次に繋がるようだ。そういったイベントと連携して関連図書を紹介するなどしても面白いと思う。また、子どもにとって夏休みの宿題は大きな負担で、例えば課題に関する参考文献を図書館で紹介したり、あまり知られていない面白い本を教えてくれたりする講座があれば有難いのではないかと思う。
【会長】	県立図書館では、どのような講座が人気か。
【副会長】	様々な形の講座を開催しているが、先日横浜国大から講師を招いて「新聞の読み方」の講座を実施した。講師が一方的に講義するのではなく、新聞を一人1部用意し、参加者がグループ内で特定記事の意見を闘わせた後全体で発表し、講師が講評をする内容であった。やはり参加型での講座は面白いようだ。
【委員】	今後老朽化対策等予算が限られた中で多面的な展開は難しいかもしれないが、カウンター横でしおりを販売できたり、お茶を飲みながら本を楽しむスペースがあったりそういった展開ができないかと思う。
【会長】	北欧の図書館では必ずカフェスペースが用意されていたりするが、日本だと賛否両論あるようだ。さきほどのふくろうのキャラクターを

	しおりにして販売しても面白いかもしれない。今後も様々なアイデアを出していきたい。
【 委 員 】	中央図書館こども室のカウンターに時々チラシで作った「蛙」が置いてあり自由に持ち帰ることができるが、そういった物は子どもたちもとても嬉しいようだ。自由に持ち帰ることができる折り紙でつくったちょっとした物が置いてあり、その作り方が紹介された本の情報を提供していただくとさらに良いのではないかと思った。
【 事 務 局 】	「蛙」は市民の方が作成して提供していただいている物である。折り方を紹介した本の情報をお伝えできる状況なので、カウンターで問い合わせただけであればと思う。

(5) 今後の予定

6月開催予定。

閉 会